

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2556回★ 小谷山	10月4日(土) 8:00 地下鉄竹田駅西口集合	清水 康裕	竹田駅西口ー登山口…(大手道)…小谷城本丸跡…京極丸跡…清水谷分岐…小谷山山頂…福寿丸跡…山城丸跡…登山口
備考 参加希望者は、担当者まで必ず連絡願います。 地 図 1/2.5万図「虎御前山」			
第2557回★★ 碓井峠, 妙義山, 荒船山	10月17日(金) ～19日(日) 17日 8:30 地下鉄竹田駅西口集合	岡田 茂久	17日 竹田駅西口ー京都南ICー碓井軽井沢ICー碓井峠鉄道文化村ー裏妙義国民宿舎《泊》 18日 裏妙義国民宿舎ー妙義駐車場…妙義神社…奥の院…白雲岳…天狗岳…タルワキ沢…妙義中間道…妙義駐車場ー石門入口…(第一～第四石門)ー神津牧場ー内山牧場ー山荘あらふね《泊》 19日 山荘あらふねー内山峠…荒船山(ともえ岩～行塚山)…内山峠ー初谷温泉《入浴》ー野辺山高原ー清里高原ー小淵沢ICー京都南IC
備考 ※1 全行程共、天候、体調等によりルート変更あり ※2 携行装備は参加者に連絡 申込〆切 参加希望者は10月10日までに担当者へ連絡願います。 マイカー山行に付き、6名先着で受付けます。 費用 約¥25,000.- 地 図 1/2.5万図 「松井田」, 「南軽井沢」, 「荒船山」, 「信濃田口」			

今月の集会

日 時 10月7日(火) 18:30~
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ)

企画運営委員会

日 時 10月20日(月) 18:30~
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ)



今年の夏も本当に暑苦しい日が多かった…

天気の良い日中はまだまだ暑い日もあるが、朝晩の涼しさは寒いとさえ思えるほどになった。そろそろ猛暑に関する話題に少し触れても嫌がられないであろう。

京都における気象データを見れば、今年の8月は夏日(日最高気温が25度以上の日)が6日、真夏日(同30度以上の日)が16日、猛暑日(同35度以上の日)が9日もあった。アスファルトの照り返しやヒートアイランド現象のおおりに受けて、体感温度は40度を超える日も少なくは無かったであろう。もうそうなったら、時候の挨拶によく用いられる「酷暑」や「烈暑」な日であると表現せざるを得ないと思われる。過去の8月平均最高気温と比較すれば、ここ数年横ばいらしいが、どうも年々暑苦しさが増していると思えてならない。

8月下旬に、たまりかねて逃げ出したわけではないが、北の大地に降り立つ機会に恵まれた。その時の爽快感はなんともいえない心地よさであった。辺り一面にヒマワリの咲く北竜町という町を訪れた時にふと感じたことがある。町の空気が夏に高山の稜線を歩いている時の……、はたまた3,000m級の山々の頂に立った時のそれと酷似していることであった。深呼吸を繰り返し体中の空気を入れ替えて、リフレッシュを図った。そうすることで、なぜか夏山シーズンに別れを告げる覚悟ができた。

うれしいことに登山にオフシーズンは無い。過ぎ去る夏山シーズンに寂しさを感じる間もなく、彼岸花、秋桜がちらほらと咲き始め、赤とんぼが夕焼けに映えて一段と赤みを増す季節になろうとしている。すばやく過ぎ去る秋山シーズンであるが、食欲、運動(スポーツ)欲、紅葉狩り、その全てを一度に満たしてくれるとても贅沢な「秋の山登り」。そのことにまだ気づいていない人たち、そのことを忘れてしまっている人たちに声を掛け、おおいに山道を歩こうではありませんか。いざ!

(2008. 9. 27 by MatsuKen)

【第2550回例会】

笛吹川(釜ノ沢東俣)・甲武信ヶ岳

松 浦 健 一

今思えば、私が参加の意を發した時点でリーダーから拒否されてもおかしく無い状態だったのかも知れない。いや、本来なら参加する資格が無かったとさえ思えてならない。

「例会 笛吹川」部報でその文字を見たとき、全身に鳥肌が立った。ついに来たか!!よ～し、と

ばかりに調整に全力を尽くし、なんとか日程を合わすことは出来たがそれだけで精一杯であった。ここ2年間の我が山行は、2年前の例会「武尊沢・上州武尊山」、1年前の個人山行「羊蹄山」のたったそれだけである。加えて、かろうじて細々と続けてきたジョギング、テレビ通販のエクササイズDVDもこのところご無沙汰で、階段をのぼると息が切れるほどの軟弱ぶりであり、恥ずかしいかぎりである。そのような状態に不安を覚えながらも「昔とった何とやら……」でいけるであろうとの勢いに任せて臨んだ山行であった。

7月25日

2台の車に分乗して久々の山談義に花を咲かせながら高速をひた走る。中央道勝沼ICから甲州街道に入り、日川溪谷の中ほどで茅葺き屋根の美味そうな蕎麦屋を見つけ一同駆け込み名物そばに舌鼓を打つ。

本日の目的地である大菩薩嶺の登山口である福ちゃん荘、上日川峠を目指す。大菩薩湖を越えた分かれ道で、カーナビの指示と鈍りまくっている我が勘が石丸峠に突き上げる林道を選択してしまった。途中舗装が切れ、すさまじい悪路となるが、それでも止まらなかった我がアクセルワークは、登山道が横切るところで誤っていることに気づき勢いを失った。先輩方に深くお詫びし、目的の登山口に着いた時には、1時間半以上もタイムロスをしてしまい、これからの行動を考えると、登頂アタックは断念せざるを得なかった。目前の百名山であったがスズメバチにも歓迎されなかったようで、車の周りを「早く行きな!!」とばかりにブンブン飛び回られた。買い出しをしながら大菩薩ラインからR140に入る。広沢湖を過ぎ、雁坂峠入口を越えてすぐのところにキャンプ場があり、今宵の宿とした。西沢溪谷入口（東沢山荘）まで約500mのところである。バンガローに泊まるファミリーキャンパーたちを横目に、先輩考案のメニュー通りの夕飯を取り、明日に備えて清めの酒を少々!?浴び、シュラフに潜り込んだ。

7月26日

体調不良!?ぎみの先輩一人にテントキーパーとして残っていただいたため、6人で行くことになった。今回のルートはザイル不要とのことであったが、念のため8mm×30mの補助ロープをザックに忍ばせ出発した。見上げると、天気予報を裏切った好天に恵まれ、清しい空気に包まれている。西沢山荘、田部重治文学碑を過ぎ、二股からは西沢溪谷方面へ快適な遊歩道が続いていた。その道と別れ、大きな吊橋を渡りいよいよ東沢に入渓する。

沢支度を整え河原歩きを開始するが、何箇所か流木の山ができています。巨木も少なくなく、削られ色白になった木々が川岸に横たわっていた。山の神までは、高巻き続きのルートに行くはずが、ホラの貝へと続くゴルジュ帯に降り立ってしまい、いっちょ行っただけかぁ!と突破を試みる。距離は短めであるが、泳ぎの連続である。補助ロープを活用して、激しい水流に抵抗しながらもひたすら泳ぎ、へつる。チョックストーン滝を越えるのにはなかなか苦労させられた。山の神に着いた時には、かなりの満足度と適度な疲労感を覚えた。

そこからはすばらしい景色をたんのうしながらの遡行となる。乙女ノ沢、東のナメ沢、西のナメ沢の見事なナメ滝が左右から合流している。釜の沢出合でどっかりと腰をおろし昼食を取る間に、何組かのパーティーが追い越していった。釜の沢に入って最初の滝が8mのナメ・魚止の滝である。左のスラブに取り付き灌木帯を抜けて河原に降り立つと、あの有名な千畳のナメである。そのナメは緑のトンネルに覆われ、文字通りどこまでも続くようで、降り注ぐ陽がキラキラと水面に輝いている。先に進むのがもったいない気がしてならない。両門の滝などいくつかの滝を越えると広河原に出る。長〜いゴロであり、何箇所かビバーク適地がある。すでに幕営しているパーティーを横

目に先へ進むが、倒木が折り重なり、それを回りこんだり、越えたり、くぐったり……ルートを誤ったのかと思うほど荒れている。小雨に見舞われたこともあり、高台に上がりビバーク地を探した。落ち葉でふかふかのテント地、焚き火、漆黒の闇夜、種々の夕食メニュー……最高のビバークであった。

7月27日

凜とした空気に包まれたこの上ない清しい朝を迎えた。体力を回復させることが出来意気揚々と身支度を調えるが、濡れた沢装備を身にまとうのはちょっと気色悪かった。依然として沢は荒れており倒木で埋め尽くされていると言っても過言ではない。まるで障害物競走をしているようであり、思うようにペースが伸びない。わかりにくい水師沢の分岐を越えてからも大小の滝が連なっている。どの滝もナメやスラブや階段状になっており、傾斜も緩めである。水心を通れば登攀欲が十分満たされるものであった。木賊沢前後のナメ滝はフィナーレを飾るのに十分な豪快さであった。源頭部は細かいナメ滝が連続しているが、次第に流れが細くなり、ガレてくる。使い古されたワラジが忘れられてあり、遡行の終わりを告げているようであった。ほどなくポンプ小屋に着き、一気に登山道へ向かった。振り返ると樹間から富士山が見えた。

甲武信小屋に荷物をデポして一等三角点のある三宝山をピストンした。甲武信ヶ岳頂上からは、南に少し霞んだ富士山、西に国師ヶ岳から金峰山の五丈石まではっきり見えた。見下ろすと遡行してきた東沢が信じられない高度差で突き上げている。下山路は徳ちゃん新道を下った。

ひどく荒れていて、かつての美しさは半減していると言われる笛吹川であったが、そのことを差し引いても登り応えのあるすばらしい沢であり、大満足であった。ただ、重荷を背負って予定通りのコースを歩き通せたものの、体力メーターがゼロを指すほどの疲労感であり、やはりコツコツとトレーニングを続けなければ余裕を持った山行が出来ないことが身に染みした。しかし、何より気をつけなくてはならないことは、この山行が初登山で納山祭にならないようにすることである。

【参加者】江草哲史、大槻雅弘、清水康裕、田村正弘、松浦健一、室谷和彦、吉田 武

【コースタイム】（記録：清水康裕）

7月25日（金）晴	6：00～6：15 東沢山荘駐車場
6：45 JR山科駅	6：35 甲武信ヶ岳登山道入口
7：35～8：05 多賀SA 朝食、 ガソリン補給（田村さんの車）	6：40 ヌク沢
8：50 小牧JCT	6：45 徳ちゃん新道入口
10：05～10：15 駒ヶ岳SA	6：46 田部重治文学碑
10：20～10：35 小黒川PA	6：50 二股（東沢と西沢の分岐） 吊り橋を渡る
11：45 勝沼IC	6：55 西沢溪谷入口
12：05～12：55 「蕎麦街道 砥草庵」で昼食	7：00～7：15 河原で沢登りの靴に履き替え
13：45 ロッジ長兵衛	7：20 鶏冠谷
14：15～14：25 ガソリン補給 （吉田さんと田村さんの車）	7：25～7：30 小滝巻く
14：30～14：45 コメリ、ローソン （おにぎりの具、ラップ購入）	7：30～7：50 江草さんと清水が高巻きする 大槻さん、吉田さん、室谷さん、松浦さん は、ホラの貝のゴルジュ通過
15：35 笛吹小屋キャンプ場到着 夕食（焼肉）	8：25～8：35 全員集合
7月26日（土）晴	9：00 山ノ神
4：00 起床 朝食（ラーメン少し、おにぎり）	9：35 乙女ノ沢
5：55 キャンプ場出発	9：55 東のナメ沢
	10：30～10：40 西のナメ沢

11:15~12:00 分岐(釜ノ沢への)
昼食(ソーメン, 魚缶)
12:05 魚止滝
12:25 千畳のナメ
13:00~13:05 小休止
13:30 両門の滝
14:05~14:10 小休止(小滝の上)
14:35~14:40 雨すぐ止む 小休止
15:25 小休止 ケルン見える
15:40 ビバーク 夕食(肉野菜炒め)

7月27日(日)晴
4:00 起床 朝食(ラーメン少し, おにぎり)
5:55 ビバーク場出発
8:40 登山道合流点
9:25~9:30 三宝山
9:50~10:05 甲武信ヶ岳
10:15~10:50 甲武信小屋
12:55 尾根の右側(東側)ガスル
15:00 東沢山荘駐車場
16:35~17:00 花かげの湯
22:40 帰京

【第2553回例会】

「富士山」二等三角点 3,776m (二等最高三角点)

「白山岳」二等三角点 3,756m

「羽鮒山」一等三角点 321m (綺麗な模様の入った標石)

吉 田 武

交通局に入局して間もなく昭和42年に厚生会の白馬岳登山大会があった。この時から百名山は始まったが、交通局に入る前に僕はもう百名山の山、「伊吹山」は3度夜間登山で登っていた。僕がまだ田舎の青年団時代の事なので、やはり山岳部に入ってからを数える事にした。

今年の初日の出「三上山」の山頂で今年中に百名山は登りきってしまうと思った。今年登れなかったら体力に自信が無かった。しかし、残った山は手強い山ばかりになった。「飯豊山」は1日目から雨が降り2日目は曇り空の中で梅花皮小屋まで縦走して最後の日のみ快晴であった。岡本義弘君が付き合ってくれたが、彼が来なかったら……登れただろうか?「幌尻岳」はツアーで行くことを初めから決めていたので「飯豊山」に行く前から申し込んでおいた。渡渉が多く、他の人は殆んど渡渉の経験が無く、危なっかしいばかりで相当ホローをさせてもらった。深みにはまった女性の救助もしました。日高山脈の真ん中で最高の天気になり、正面にカムエクを見ながら感激していた。

今回の富士山は岡本義弘君と清水君が計画をたてて、僕を持ち上げてくれた。ただし、登山口だけは富士吉田口に拘っていたので、岡本君にお願いした。当初、富士吉田浅間神社から頂上と思っていたが、今の僕ではそんな根性も出てこなかった。1週間前からの天気予報を気にしながら、祈る思いでその日を待った。

9月4日(木)朝、6時岡本君が大槻さんの家に来た。登山用具プラス山での食料を持って、6時50分に渡辺さん、江草さんそして清水君が来て、全員集合して一路東名高速 富士ICまで第二名神を使って走った。四日市東JCTからの湾岸高速は凄く早く岡崎ICまで行くつもりであったが……東名高速の豊田JCT付近でドライバーが話をしすぎて間違った道路に入ってしまうUターンして東名高速に戻るハプニングもあった。

富士ICで降りてR139を少し北上して最初に一等三角点「羽鮒山」320.9mに少しだけ登って着いた。綺麗な模様の入った標石の一等三角点であった。次に、「白糸の滝」滝100選の一つで富士山からの湧水が落ちていて、出展望台から眺めるだけで早々に富士スバルラインに入った。ガケ崩れがあり通行止めの電光掲示板があったので料金所まで状況を聞きに行った。「今、通行できるように改修しています。」と返事が返ってきたが、明日通行できなかつたら登山口を変更しなければならないので、

もう少し様子を聞くと、明日は通行できるだろうと返事があったので、近くのテントサイトを探したら山梨県の管理するキャンプ場「創造の森」があったので、早速宴会の準備をして明日からの登頂に備えた。

9月5日（金）朝もやの中で気持ちよく目覚めた。6時20分にスバルラインの料金所をくぐり、五合目の駐車場に着いた。標高2,300m。今日のお宿は八合五勺にある「御来光館」で、素泊まりの予定である。標高差1,200mを1日かけて登る事になるので気分は良いはずなのに何故か体が重い。車道を少しトラバースして道標に沿って右の登山道に入る。六合目の「雲海荘」で少し休憩、ここからは少し整備された登山道が七合目まで続いていた。七合目からは岩稜帯になり、岩につかまりながら登る所もあった。眺望も開けてきて、いくつもの山小屋が次々と現れるので勇気付けられた。八合目近くなって砂礫の道になった。また山小屋が見えてきた。八合目「太子館」に着いた。今、登って来た屋根が足下に見えて、遥か下のほうに河口湖や山中湖が白く見えて、「三ツ峠山」がどしりと正面に見えている。鳥居をくぐり少し登ったら、本八合目「富士ホテル」、「トモエ館」、「胸突江戸屋」と三軒の山小屋があった。須走口とコースが会った所が御来光館で、やっとの思いで着いた。

素泊まりなので寝床のみキープして少し早い夕食の準備をした。義弘君スペシャル!!毎度献立が待ちどろしい。本日は「うなぎ丼とふかひれスープ」。何という素晴らしいメニューだ。小屋の前の通路で作っているので登山者全てが覗き込んでいる。特に小屋の主人は度々関心しながらツバを飲み込んでいた。特に今回ご飯が素晴らしい。家で炊飯と冷凍をして八合五勺の通路でご飯を蒸し器にかけているのではないか、これには全ての人間が唖然とした。ビールもウィスキーもうなぎ丼も全て最高!!「義弘君ありがとう……」

9月6日（土）2時半過ぎに目が覚めたが、なかなか床から起きられなかった。身支度をして3時頃に表に出たが登山者でいっぱいだ。五合目から八合目まではまるで青春時代の「伊吹山」の夜間登山のようで次から次へとヘッドランプが登ってくる。何とか隊列の中に入って登っていくが、誰の後ろを歩いているのか解らない。ピッチをきって休憩しながらゆっくりと登った。

最後の鳥居をくぐれば、お鉢の頂上に着いた。普通の人はこちらが頂上としているようだが、やはり三角点に行かなければ意味が無い。180度反対に「剣ヶ峰3,776m」があるので、右回りに「お鉢めぐり」をした。途中、御来光の時刻になったので、暫くは休憩して御来光待機。遥か遠く東北東の雲間から真っ赤な太陽が昇ってきた。光線が走ると思ったが、ぼんやりと雲間に見えただけで写真にはならなかった。

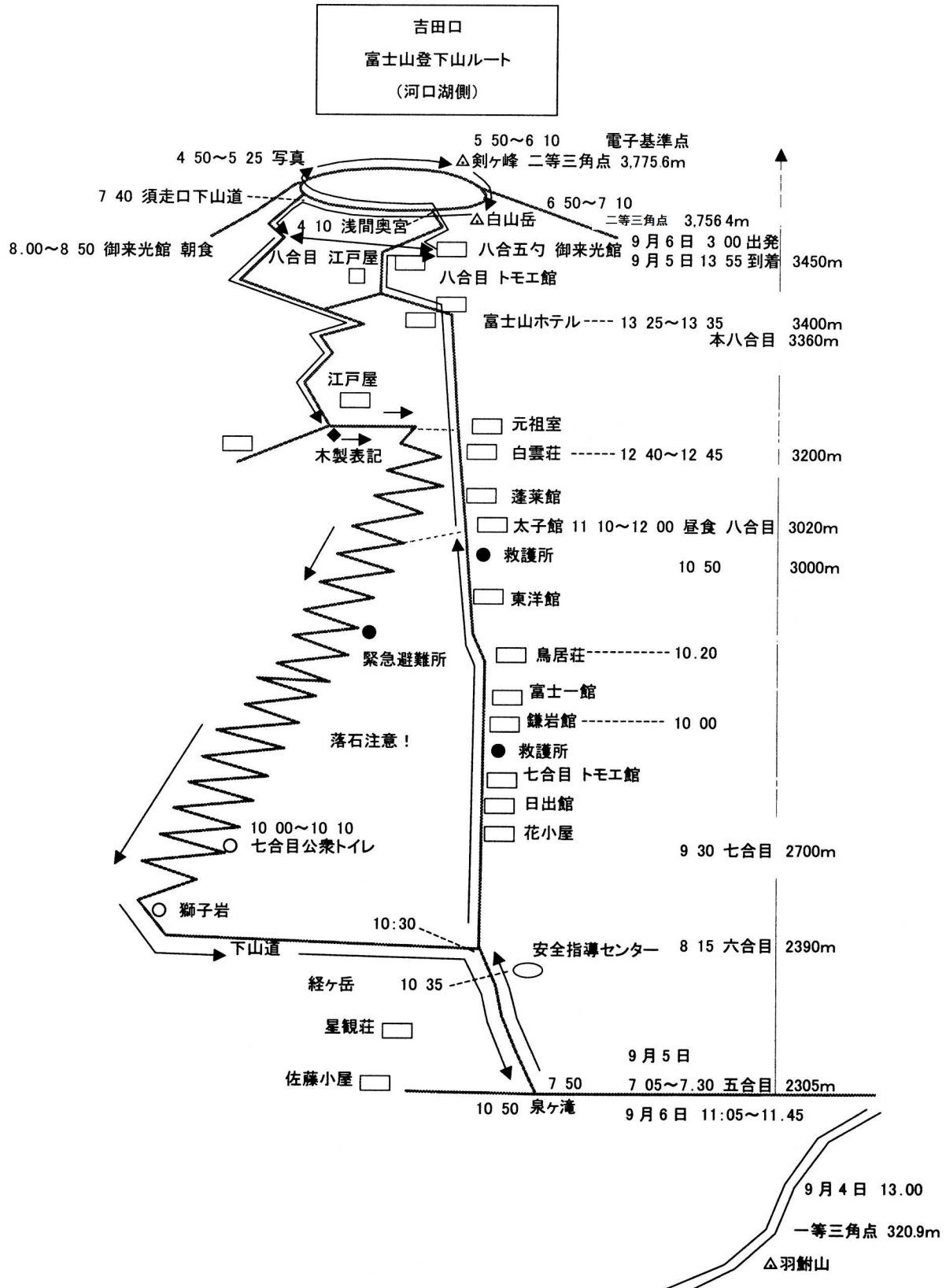
御殿場口からの登山者と富士宮口からの登山者と何人かすれ違ったが、なぜ「剣ヶ峰」に行かないのか不思議だった。ブルトナーの道を駆け上がった富士山最高点「剣ヶ峰」に着いた。ここでの写真は順番待ち。早々に写して、次の二等三角点「白山岳」に行った。途中、太平洋側に「影富士」が映し出された。思い思いにシャッターを押した。「白山岳」は3,756m。我々以外に1名だけこの三角点に来られたが、この三角点はあまり知られてはいないようである。「お鉢めぐり」をして下山道の看板に従ってブルトナー道を下った。砂煙を上げながら足早に下っていくと、八合五勺の「御来光館」に着いた。デポしておいた荷物をひとまとめにして、砂煙を上げながら、六合目でトイレタイムをして、五合目の駐車場まで下った。

おなかも空いたので、今回の食料を残さずに全部食べるように皆が努めた。行きも帰りも「創造の森」キャンプ場、まことに素晴らしい所であった。

打ち上げ会は河口湖畔の「湖のホテル（みずのホテル）」で盛大にして貰った。同行してもらった方々に「心から感謝します。ありがとう御座いました。」

1967年（昭和42年）7月26日に「白馬岳」に登って以来こんにちまで41年間で深田久弥さんの「百

名山」をすべて登った。昭和43年には「穂高縦走」、昭和54年の「北岳」と「間の岳」、京交山岳部創立35周年の時には「利尻岳」と「大雪山」、山岳連盟の冬山研修会の「八ヶ岳」、沢登り例会では「谷川岳」や「平ヶ岳」そして「苗場山」、百名山を気にしてからは南アルプスの「聖岳」や「塩見岳」、九州の「祖母山」や「久住山」、そして僕には限りなく美しい尾瀬の「燧ヶ岳」と「至仏山」。どれもこれも全て素晴らしい山である。また、これからは違った「百」を目指すので、よろしくお付き合いをお願いしたい。



【参加者】 吉田 武, 大槻雅弘, 江草哲史, 岡本義弘, 渡辺智生, 清水康裕 (6名)

【コースタイム】

2008年9月4日(木)

6:50 JR山科駅—6:47 京都東IC—7:00 第二名神へ—9:30 豊田JCT 東名高速へ—
11:50 富士IC—12:05 ジャスコ寿司屋 12:50—13:00 羽鮒山 一等三角点320.9m—13:45
白糸の滝 14:00—14:50 富士スバルライン料金所 15:10—15:20 「創造の森」キャンプ場

9月5日(金)

「創造の森」キャンプ場 6:10—6:20 富士スバルライン料金所—7:05 五合目
[吉田口 富士山登下山ルート(河口湖側) 図中コースタイム参照]

9月6日(土)

11:05 五合目 11:45—12:10 富士スバルライン料金所—12:20 「創造の森」キャンプ場 昼
食 13:10—13:30 忍野八海 14:05—14:50 川口湖畔「湖(みず)のホテル」

9月7日(日)

「湖のホテル」 8:40—9:05 一宮御坂IC—14:35 大津SA 15:13—15:15 大津IC—
15:20 JR大津駅—15:30 四ノ宮

【個人山行】

「幌尻岳」二等三角点 2,052m

OB 吉田 武

平成20年8月9日(土)

関空より新千歳空港・マイクロバスで夕張から日高町沙流川温泉「高原荘」にPm4時頃に着いた。
温泉に入り明日の為に装備のチェックと高原荘に置いていくものを区分けして、添乗員の説明を
聞き余裕を持って就寝した。

7月10日(日)

今日は高原荘からジャンボタクシーに乗り、第一ゲートまで2時間あまりのドライブ、一般車は
ここまでで、タクシーはここから2.5km先にある仮ゲートまで入れるので時間短縮になる。仮ゲ
ートからは荷物だけ軽トラックに積んでもらい、1時間半ほど歩いたら取水ダムに着いた。

取水ダムでトラックから荷物を受け取り、沢登りの装備を着けた。初めて沢登りをする中高年
の方ばかりなので隊列の中間に入りエスコートをすることになった。深い所で巖位なので心配する
ことが無いが慣れていないので危なく感じた。四ノ沢出合いで休憩を取り何回かの渡渉を終えやっと
幌尻山荘に着いた。

板の間に毛布を2枚置いてもらい寝る所を決めてから、表で夕食まで酒を飲んだ。ビール700円、
飯豊より安い。2本買って、あとは持参のウイスキーを飲んだ。明日は3時起きで4時出発、早々
に毛布に包まった。

7月11日(月)

3時起床、4時10分出発。山荘からいきなり急斜面のジグザグの登りとなる。ヘッドランプが無
くても歩けるようだが暫くは足元を照らして歩いた。トドマツの多い森の中を高度を上げるに従い
沢の音も遠くなり飽きるほどのターンを繰り返して平坦な尾根に着く。そして次の斜面が変わる所
が「命の泉」であった。左下に少し下ったら冷たい湧き水が出ていた。水を補給してからが急坂と

ハイマツ帯で標高1,600mまで登ると視界が開けてきて、稜線まで登ると目の前には北カールが、そして展望が開けてきたら十勝の山々や遠くにはトムラウシ山、ニペソツ山の方まで見えた。急坂が終わり左にカールを見ながら少しずつ高度を上げていく。1,800mまで登ると幌尻岳の頂が見えてきた。あと300mほどであるが頂が見えてからは、あせる気持ちを抑えてゆっくりと登った。新冠川コースと合流してからは直ぐに頂上に着いた。

幌尻山荘を4時10分出発して7時40分に二等三角点 幌尻岳に着いた。思っていたよりは楽に登れた。99山。今回のツアーでは僕が一番多く登っているのだから、全員が僕を祝福してくれて皆で大きな声でバンザイと叫んだ。

天気は雲1つ無く最高だ。「こんな天気を迎えられるのは、今回のパーティの中に『晴れ女』が居ます。」と誰かが言っていた。1時間ほど休憩して下山した。ハイマツ帯なので下山も同じような時間がかかった。命の泉で水を補給して1時間30分ほどで幌尻山荘に着いた。ここでまた、沢靴に履き替えデポしておいたザックを整理して1時間後に出発した。

渡渉途中で年配の方が深みにはまり転んだので、僕はあわてて助けに行った。大事には至らなかったが少し疲れているようであるので、自分のペースで歩くように言った。

取水ダムには軽トラックが待っていたので、登山靴に履き替えて荷物はトラックに積んで運んでもらった。ここから5.5km林道歩き。空身なので快調に飛ばした。仮ゲートでジャンボタクシーに乗り換えて高原荘まで運んでもらった。風呂に入ってビールを飲みながら満足感に浸っていた。

7月12日（火）

高原荘から荷物は宅急便に頼んで新千歳空港で少し土産を買ってPm 4時30分に自宅に着いた。心地よい疲れであった。

例 会 報 告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
2550	笛吹川東沢釜の沢遡行	7月25日 ～27日	雨 晴	吉田 武	江草 哲史 大槻 雅弘 清水 康裕 室谷 和彦 松浦 健一 田村 正弘	(別稿詳報)
2552	劔岳・立山	8月22日 ～24日	晴 雨	堀田 剛 清水 康裕	井戸 澄夫	(別稿詳報)
2553	吉田武さん 百名山完登記念 富士山	9月4日 ～7日	晴	岡本 義弘 清水 康裕	吉田 武 江草 哲史 大槻 雅弘 渡辺 智生	(別稿詳報)
2554	芦屋ロックガーデン から六甲山	9月13日	雨 後曇	堀田 剛	井戸 澄夫 堀田 剛	(別稿詳報)

山の雑岳シリーズ

その7

吉田 武

信仰対象の山

開山のパイオニア

名前	時代	コメント
えんのぎょうじゃ 役の行者	奈良時代	修験道の開祖とされる。名を小角（おづぬ）という。大和葛城山で修行し数々の法力を身につけたとされる。
たいちょう 泰澄	飛鳥時代	泰澄は、幼い頃から神童と言われ21歳で得度。36歳のときに二人の弟子と共に白山に登頂し、白山を開いた人である。
じこう 慈興	飛鳥時代	701（大宝元）年、越中国司の息子であった佐伯有頼（慈興）は白鷹と黒熊に導かれて立山に登り、これを開いたと伝えられる。現在は雄山神社に祭られている。
しょうどう 勝道	奈良時代	現在の栃木県真岡市に生まれた勝道は、幼い頃に日光山の開山の啓示を受け、二荒山（男体山）を開山した。
ばんりゅう 播隆	江戸時代	新田次郎の小説でも有名な、槍ヶ岳開山の僧。様々な苦難を乗り越え、開山は1828（文政11）年のこと。
はせがわかくぎょう 長谷川角行	江戸時代	江戸時代前期、富士山麓の人穴で修行していた修験者の角行は、啓示を受けて富士山登拝を様式化。富士講へと発展する。
しゃくぜん 灼燃	平安時代	四国石鎚山は役行者開山の伝説もあるが、史実では平安時代に法安寺の僧、灼燃とその弟子たちの上仙上人が登拝して石鎚山とその周辺の山を開いたとされる。
ふかん 普寛	江戸時代	1731（享補6）年秩父生まれの普寛は30代で修験者となり、のち御嶽山王滝口を開く。関東にも御岳講を広めた。

雑 報

△△△ 9月の集会

日 時 9月12日(金) 18:30~
場 所 holly's cafe (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
出席者 井戸, 大槻, 岡田, 方山, 坂井, 清水, 堀田, 吉田, 渡辺, 和田 以上10名
内 容 例会報告, 例会予告, 個人山行, 岳連関係報告, 60周年記念事業ほか

△△△ 8月の企画運営委員会

日 時 8月20日(水) 18:30~
場 所 holly's cafe (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
出席者 井戸, 方山, 清水, 堀田, 三橋, 吉田 以上6名
内 容 例会予告, 岳連関係報告, 60周年記念事業ほか

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

8月号 趣味の登山, わっぱ, 比良山岳
9月号 一等三角点, 京都山岳, 比良山岳, わっぱ, 北山, 趣味の登山, 木雞, 青嶺
10月号 北山, 木雞

△△△ 京交山岳部創部60周年「記念誌」原稿募集について

平成20年6月号でお知らせしましたとおり, 現在, 「60周年記念誌」の作成に取り組んでいるところですが, 部員の皆様から次の内容で原稿を募集したいと思いますので, よろしくお願ひします。

【内 容】 「京交の思い出」という内容で, 京交山岳部と各部員の皆さんとの関わりのほか, 山に関する内容であれば, なんでも結構です。

字数は, 部報で1ページ程度(1,200字程度), 写真等も併せて投稿してください。

【締め切り】 平成20年12月末日

記念誌担当の清水, 松田までお願ひします。

△△△ 平成20年度部費受領者について

9月20日現在, 前号までに掲載しました部費受領者に加えて, 次の方々から平成20年度会費を受領しましたので報告します。

(敬称略) 岡本義弘